

カリキュラム区分		現行カリ			シラバス区分		専攻科		
科目区分	科目コード	履修時期		開講専攻	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位	
		学年	学期						
助産学探究領域	S123	1年	通年	助産学専攻科	必修	助産学研究Ⅱ	30	1	
						Midwifery ResearchⅡ			
担当教員									
井上 明子		今村 朋子		瀧本 千紗					
関連するDPキーワード									
○	① 生命の尊厳を基盤とし、助産師としての倫理観と責任感を持ち、対象を尊重することができる。								
	② 助産師としての役割や責務を自覚し、助産師であることに誇りを持つことができる。								
	③ 女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関する健康課題について、広い視野から支援することができる。								
○	④ マタニティサイクルにある対象の個性性を尊重し、対象のもつ力を最大限にひきだすための基本的な助産診断及び助産技術を獲得できる								
	⑤ 女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるために、地域と密着した子育て支援活動が理解できる。								
○	⑥ 周産期医療の高度化や多様化する価値観、時代のニーズに柔軟な対応ができる能力を身につけている。								
○	⑦ 助産ケアの質の向上を図るために、研究的視点や科学的根拠を活用し、さらに探究する力を身につけている。								
授業目的									
助産学実習ⅠおよびⅡで受け持った実際の継続事例への助産援助を振り返り、事例研究論文にまとめる。									
到達目標（授業目標）									
1. 「助産学研究Ⅰ」で学んだことを基盤として、助産学実習で受け持った継続事例を研究的視点で再考し、論文作成までを行うことができる。									
2. 根拠に基づいた助産ケアの実践について考察を深めることができる。									
授業計画（項目・内容と方法・担当者）									
授業概要	授業は、論文指導教員による個人指導の形式とし、学生個々のテーマに応じて内容の推敲を重ね論文にまとめる。 論文作成までの学習過程は下記の通りである。								
	1. 継続事例を通して探究したい現象について、文献検討を通してテーマを焦点化する。								
	2. 実習の中で継続事例に対してテーマに沿った意図的な関わりを行い、対象の反応を捉え、データを収集する。								
	3. 助産学研究Ⅰの学習内容を踏まえ、収集したデータを分析する。								
	4. 分析結果を考察し、結論を導き出す。								
	5. 事例研究論文としてまとめ、学生と教員および実習指導者等の関係者に配布し事例研究論文発表会を行う。								
	*詳細については、助産学研究Ⅰ、および必要時オリエンテーションを行い説明する。								

成績評価方法及び基準									
評価表(100%)に沿って指導教員が評価する。60点以上を合格とする。									
教科書		特に使用せず。							
参考図書等		各担当教員から適宜紹介していく。							
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）									
論文作成を目的とするため、授業時間外の論文作成が主となる。 教員との面接に向けて、計画的に論文を書き進めていく。									
関連科目									
前科目	S118	助産学実習Ⅰ	S119	助産学実習Ⅱ	S122	助産学研究Ⅰ			
後科目									
実務家教員									
備考		一人の妊婦と継続的な関わりをする中で学生自らが探求したいテーマを見つけ、分析し、事例研究論文にまとめます。この成果を実習指導者の方を招き、論文発表会で報告します。							